経験年数の浅い教員の授業力向上に関する研究

―ポジティブ行動支援の手法を取り入れた「授業 Good for you!」の提案―

学籍番号　179957
氏　名　辻本　毅一郎
主指導教員　野中　拓夫

1.　問題の所在

本研究の目的は、近年の教員大量退職、大量採用という状況下における、経験年数の浅い教員の増加、それに伴う授業力の低下という喫緊の課題の解決方法を探ることである。

文部科学省(2015)は「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について－学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて－」において、経験年数の浅い教員における資質能力の向上の必要性を指摘している。堺市においても同様であり、経験年数の浅い教員の授業力向上が課題であることは明らかである。

A 小学校教員の通常の授業において、授業観察・授業実践を中心に、課題解決に取り組んできた。しかし、実施した授業介入は手軽ではなく、また即効性もなかったため、教員への定着を図ることはできなかった。また、授業観察を通して、「ほめ」「認める」言葉に対する課題が確認された。

2.　「授業 Good for you!」の提案

2.1　「授業 Good for you!」の定義・方法

提案の中心である「授業 Good for you!」とは、児童を矯正的・否定的な言葉を用いて指導するのではなく、「ほめ」「認める」言葉を効果的に使用しながら伸ばすため、指導者の「ほめ」「認める」言葉の量的・質的な向上を図ることを目的とする。そのための一方略として、ポジティブ行動支援を基本とし、授業者が授業中に用いた「ほめ」「認める」言葉と、「ほめ」「認める」言葉に変換することができる「言い換えられる言葉」を授業観察者が記録し、データをもとに授業者に対してポジティブにフィードバックすることで、授業者の変容を促す。これら一連の営みを「授業 Good for you!」と定義する。

2.2　「授業 Good for you!」の成果

A 小学校で、通常の授業に対し介入を行った。その結果、対象となる教員の「ほめ」「認める」言葉の量的質的な向上が確認でき、「言い換えられる」言葉の減少が確認できた。また、対象となる教員からも「授業 Good for you!」の介入に対し肯定的な評価を得た。次に、「授業 Good for you!」の信頼性を確認するため、報告者以外の教員にも同じ方法で「授業 Good for you!」を実践してもらった。その結果、授業者の「ほめ」「認める」言葉の向上が確認でき、記録の一致率も平均 80.5%であり、庭山（2016）と比較して高い結果が出た。

「授業 Good for you!」の汎用性と、児童への効果を確認するため B 小学校において実施した。その結果、A 小学校と同様の結果であり、効果的であったことが示された。介入を行った学級では、学校回避感の強い児童に効果的であることが確認できた。さらに、「授業 Good for you!」の全介入期間は 1 ヶ月程度で期間も短く、介入の回数も平均 13.6 回と少ない。

このことより、「授業 Good for you!」は「いつでも」「どこでも」「誰でも」「手軽に」「即効性のある」方略であるということが確認できた。

2.3　「授業 Good for you!」の発展性

まずは、教職員のメンタルヘルスの課題改善である。本研究では、介入の際、授業観察者の主観による指摘が中心の指導ではなく、授業者に対しポジティブ・フィードバックすることを行った。対象となる授業者は、授業介入に肯定的であり、研究に対し快く受け入れていた。また、日頃関わることができない関係でも同様の結果であった。この結果は、「教員は自分の指導に干渉されることに対しマイナスの意識を持っている。」（文部科学省 2013）との指摘に対しての改善策となる可能性があるのではないだろうか。

次に、教育実習生に対する OJT への活用の可能性である。本研究の対象者に、教育実習生も含まれていた。教育実習生は、授業中に「ほめ」「認める」言葉を用いて指導することを、大学の講座などで度々指導されていたにもかかわらず、介入前の授業では、適切に「ほめ」「認める」言葉を用いて指導することができなかった。しかし、介入により「ほめ」「認める」言葉を効果的に使えるようになり授業力の向上が見られた。この結果より、「授業 Good for you!」は経験年数の浅い教員はもとより、教育実習生に対する OJT にも活用の可能性が期待できる。

最後に、教員や児童の望ましい行動に対してポジティブ行動支援を行うことにより、その行動を強化することへの期待である。「授業 Good for you!」は、指導者の「ほめ」「認める」言葉の量的・質的な向上を図ることを目的とし、そのための一方略として、ポジティブ行動支援を基本とした。ポジティブ行動支援は、応用行動分析学を実践上の主な基盤としており、本研究で行った「ほめ」「認める」言葉以外でも応用可能であると考える。

2.4　「授業 Good for you!」の課題

「授業力向上」は本研究で行った「ほめ」「認める」言葉の量的・質的充実のみですべてが改善できるわけではない。優れた教材の開発、学習スタイルや学習形態の工夫など、さまざまな方法と組み合わせて行うべきであることは言うまでもない。

また、本研究では、「ほめ」「認める」言葉の量的・質的充実での、児童の学校肯定感・回避感の変容のみを調べた。先行研究から「ほめ」「認める」言葉は、「自己肯定感」「内発的動機づけ」などへの効果が確認されている。これらの知見に立脚し、「授業 Good for you!」を長期にわたって継続することで、児童へどのような効果をもたらすか検証することを、今後の課題としたい。